

第72回 全日本中学校長会研究協議会

静岡大会



富士山 撮影：筒井 章氏

期 日 令和3年10月20日(水)・21日(木)・22日(金)

ホスト会場 ホテル クラウンパレス浜松・アクトシティ浜松

第72回 全日本中学校長会研究協議会

静岡大会



日本平から富士山を望む

主催 全日本中学校長会・東海北陸中学校長会

主管 静岡県校長会

大会主題

「新たな時代を切り拓き、よりよい社会を形成していく日本人を育てる中学校教育」

開催趣旨

社会の変化は加速度を増し、今の子供たちが成人して社会で活躍する頃には、我が国は厳しい挑戦の時代を迎えていると予想される。生産年齢人口の減少、グローバル化や高度情報化、技術革新等により、社会構造や雇用環境は大きく変化しており、複雑で予測が困難な時代となっている。社会の変化や多様化による国の教育改革の動きは速く、内容も多岐にわたる中で、私たち校長は、経営者として常に今と未来の社会の有り様を見据え、確かな理念のもとに学校経営方針を立てる必要に迫られている。

平成29年3月に告示され令和3年度から全面実施となった学習指導要領では、社会と連携・協働しながら、未来の創り手となるために必要な資質・能力を育む社会に開かれた教育課程の実現、カリキュラム・マネジメントの確立が求められている。

全日本中学校長会は、知識の理解の質を高め資質・能力を育む「主体的・対話的で深い学び」の視点から、授業改善を推進する中で、「新たな時代を切り拓き、よりよい社会を形成していく日本人を育てる中学校教育」を研究協議会主題に設定し、研究協議を深めてきた。

本大会においては、これまでの研究の成果を踏まえつつ、全国中学校長の英知と創意を結集して、主題に迫る具体的な方策を究明し、我が国の中学校教育の充実発展を期するものである。

静岡県の鳥・花・木



提供：望月茂雄氏

鳥：サンコウチョウ



提供：松浦眞一郎氏

花：ツツジ



提供：松浦眞一郎氏

木：モクセイ

大会挨拶

第72回全日本中学校長会研究協議会静岡大会 大会会長
全日本中学校長会

会長 宮澤 一 則



第72回全日本中学校長会研究協議会静岡大会が、「未来創造！共に歩みだそう ふじのくにから」の大会スローガンのもと、静岡県浜松市で開催されますことを心よりお喜び申し上げます。本大会の開催にあたりましては、全日本中学校長会としても緊急対策本部を設け、検討を進めてまいりましたが、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、当初の「現地参加型」から「ハイブリッド型」となり、最終的にはすべて「オンライン形式」となりました。静岡県中学校長会をはじめ、静岡大会実行委員会の皆様には、度重なる変更により、想像を絶する御努力があったと拝察いたします。しかし、何とか素晴らしい大会を開催しようとする熱い気持ちですが、今回の実施に結びついたと確信しております。本大会の開催にあたりまして、御尽力いただきました大会実行委員長であり、静岡県中学校長会会長である宮崎正様をはじめ、東海北陸中学校長会、静岡県中学校長会の皆様に心より敬意を表します。また、御支援・御指導を賜りました文部科学省、静岡県、浜松市、静岡県教育委員会、浜松市教育委員会をはじめ、多くの皆様に深く感謝申し上げます。

さて、現在も新型コロナウイルス感染症が国内に広まっている状況ですが、それぞれの学校におきましては、様々な対策を講じ、生徒や教職員の命を守ることを第一に、教育活動を進めておられることと存じます。このような状況の中、「学びを止めない」ということが大変重要なことと捉えております。昨年度は、突然の対応に戸惑うこともありましたが、これからは「新型コロナウイルス感染症とともに生きていかなければならない」という認識のもと、工夫を重ねながら、教育活動を進めていく必要があります。今回の「オンライン形式」による開催も、全国の会員の皆様の研修の機会として、「活動を止めない」という強い意志の表れと認識しております。

また、今年の1月に文部科学省より「令和の日本型学校教育」が示されました。この中で新学習指導要領の着実な実施、学校における働き方改革の推進、GIGA スクール構想の実現などが課題としてあげられています。このように教育界にとって、今年度は大きな変革の年となり、全ての子供たちの可能性を引き出す「個別最適な学び」と「協働的な学び」の実現、さらには「主体的・対話的で深い学び」の展開、「1人1台端末」の有効活用なども喫緊の課題です。

コロナ禍において、このような教育改革を着実に進めていくためには、全国の校長先生方が連携・協力し、中学校の進むべき方向性を明確に示す必要があります。教育再生実行会議から第12次提言が出されましたが、この中に「ウェルビーイング」という言葉がたびたび出てきます。一人一人の幸せはもちろんのこと、社会全体の幸せを実現しようとする熱い願いがここにはあります。今我々が取り組むべきことは、この「ウェルビーイング」の実現です。この提言の中には「教育の未来は今ここで決まる」という言葉も使われております。我々も強い意志をもって、校長としての責任を果たすとともに、中学校教育のさらなる改革を推進して参りたいと思います。そして、全国の会員の皆様と気持ちを一つにして、不透明な時代を生き抜いていく、生徒たちの知力と人間性の成長を願い、常に前進していきたいと考えております。

最後になりますが、今回の第72回全日本中学校長会研究協議会静岡大会の成果が、明日からの学校経営の確実な前進に結びつき、我が国の中学校教育のさらなる充実・発展につながることを信じております。今回の静岡大会の成果が次年度の北海道（札幌）大会に引き継がれますこと、そして、全国の会員の皆様、お一人お一人のさらなる御活躍を祈念いたしまして、挨拶とさせていただきます。

大会挨拶

第72回全日本中学校長会研究協議会静岡大会 実行委員長
静岡県中学校長会

会長 宮崎 正



第72回全日本中学校長会研究協議会静岡大会は、「新たな時代を切り拓き、よりよい社会を形成していく日本人を育てる中学校教育」という研究協議会主題のもと、静岡県浜松市でハイブリッド型により開催される予定でしたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、オンライン形式のみによる開催といたしました。

私たち、県下257名の校長は、平成30年度から準備委員会を立ち上げ、平成31年度（令和元年度）には実行委員会を組織し、一昨年度の群馬大会の視察、昨年度の和歌山県中学校長会との引継ぎ会を行い、新型コロナウイルス感染症予防対策を踏まえた上で、ハイブリッド型の大会が円滑で効果的な運営となるよう心掛けてきました。

しかし、令和3年8月20日（金）からの緊急事態宣言発令等、想定を遥かに超える事態となり、現地参加は困難であると判断し、ハイブリッド型開催からオンラインのみの開催へと変更いたしました。会員の皆様には、多大なる御心配をおかけしましたことに、深くお詫び申し上げます。オンライン形式のみによる開催となりましたが、現地開催、及びハイブリッド開催同様、意義ある大会になるよう努めてまいります。

本大会のスローガンは「未来創造！共に歩みだそう ふじのくにから」です。

本年度から全面実施となった学習指導要領では、社会と連携・協働しながら、未来の創り手となるために必要な資質・能力を育む社会に開かれた教育課程の実現、カリキュラム・マネジメントの実施が求められています。そして、Society 5.0時代に生きる生徒にとっては、文部科学省が進めるGIGAスクール構想を推進し、誰一人取り残すことのない公正に個別最適化された学びや創造性を育む学びの実現が重要です。そのために私たち校長は、学校の経営責任者として、確かな教育理念と使命感をもち、課題解決に向け学校内外の力を総合・統合し、学び続ける教職員の育成と意思の形成にリーダーシップを大いに発揮しなければなりません。また、いじめ・不登校等の生徒の指導に係る対応や、学校における働き方改革等の教職員の勤務・服務に係る対応を念頭においた学校経営に努めることが必要です。そうしたことに加えて、現在のコロナ禍は、生徒の健康管理と学力保障を両輪とした経営をいかに進めるべきかを問うもので、校長同士の横のつながり、柔軟な発想力や迅速・適正な判断力、強力な推進力が求められています。

本大会は、オンライン形式のみでの開催となりますが、設定される八つの分科会において、全日中新教育ビジョンの趣旨を踏まえ、研究主題に迫る具体的な方策を究明しながら、全国からの実践や研究成果を共有し、新たな教育課題や共通認識をもつことは極めて有意義であると考えます。新型コロナという大きな困難に直面する今だからこそ、本大会を通して、全国の中学校長の英知と創造力が結集され、中学校教育が一層充実発展するということを、静岡県浜松市から発信したいと思っております。

今後、今の情勢が落ち着いてきましたら、ぜひ、静岡にお越しいただき、富士山、韮山反射炉の世界文化遺産や伊豆半島、南アルプス、浜名湖等の豊かな自然に加え、うなぎ、わさび、静岡茶、みかん、いちごなどの特産物や桜エビ、かつお、マグロの海鮮グルメ等、富士の雄姿を望む静岡の魅力を感じていただければ幸いです。

最後になりましたが、文部科学省、静岡県及び浜松市、そして、両教育委員会、全日本中学校長会、東海北陸中学校長会をはじめ、御支援・御協力を賜りました多くの皆様方に心より感謝と御礼を申し上げ、挨拶いたします。